

.....
本 会 記 事
.....

オープンアクセスと電子ジャーナルへの早期掲載について

粉体粉末冶金協会会員諸氏におかれましては、平素より協会誌「粉体および粉末冶金」の紙面づくりと論文投稿にご協力賜り、誠にありがとうございます。2022年4月以降前任の東北大学松原秀彰先生から編集委員長を引き継いでおります岸本です。引継ぎ以降、論文掲載方式に大きな変更が二つありました。掲載論文のオープンアクセス化とそれに伴う電子ジャーナルへの早期掲載です。この二つは協会出版編集委員会の議を経て、理事会にて承認、実施に至ったわけですが、今回改めてその経緯を含めて説明いたします。

本協会では協会誌に掲載された論文をJ-STAGEを介してインターネット上で公開しています。以前は、会員限定公開期間（6カ月、エンバーゴ期間といいます）の後、非会員でも論文を自由に読むことができましたが、読者が論文を書く際の粉協誌本文の引用や図表の再利用にあたっては、著作権元である協会の許可が必要でした。論文閲覧に制限をかけないこの方式をフリーアクセスと呼んでいます。

これに対しJ-STAGEではオープンアクセス化を強く推奨しており、粉体粉末冶金協会をはじめJ-STAGEに論文を公開している学協会に移行を打診してきました。これを受け各学協会は雪崩を打ってオープンアクセス化を進めており、本協会もこの流れに先駆けてオープンアクセス化を実施しました。

オープンアクセスとは何なのか？ 閲覧に制限をかけない点ではフリーアクセスと同じですが、あらかじめ著作物に二次利用方法を提示しておくことで、その範囲内であれば著作権元に許可なく二次利用が認められます。

その著作物の二次利用方法として、クリエイティブコモンズのCC BY-NC-NDを採用することを出版編集委員会で決めております。これは原著者のクレジット（氏名、論文タイトルなど）を表示し、非営利目的で、元の文章・図版を改変しなければ、二次利用できることを意味しています。

詳しくは、<https://creativecommons.jp/licenses/>を参照してください。

当協会では、J-STAGE オープンアクセスを導入し、併せて、アクセプトされた論文を、版下の著者校正が終わった時点で早期公開することになりました。

早期公開を始めるにあたって、従来の編集方針、特にDOIの設定方法を変更する必要がでてきました。今まではDOIを付与するにあたり、冊子体の発行と同時にJ-STAGEで公開をしていましたので、冊子に掲載されるページ番号を論文の認識番号として用いていました。これでは掲載号の全原稿の論文の校正が終わるまでDOIを振ることができず、また冊子体で特集を組む際にも研究論文は早くにアクセプトされているにもかかわらず、依頼原稿のアクセプトが遅れることがあり、研究論文の公開が遅れる事態が発生していました。そのため論文の冊子体への掲載並びに公開の遅れが顕著でした。

DOIに用いる論文認識番号を論文受理番号にすることにより、雑誌のページに関係なくDOIを決定できます。このため早くアクセプトされた論文は掲載号よりも前にWEB上に公開できるようになりました。博士論文の参考資料としては提出原稿とアクセプト通知があれば認められるかとは思いますが、公開原稿のコピーがあると印象が違います。

従来のエンバーゴ、6カ月の協会会員限定公開が会員サービスの一環ではないのか、と出版編集委員会でもずいぶん議論しましたが、周辺論文誌の動向とオープンアクセス化のメリットを考慮し、エンバーゴ期間の廃止に踏み切りました。完全オープンアクセス化はジャーナルの信頼度を上げ、読者の増加につながるといわれています。会員諸氏からのこれまでも増した投稿をお待ちしております。

出版編集委員会委員長 岸本昭（岡山大学）